

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4093300079		
法人名	社会福祉法人 北筑前福祉会		
事業所名	宗寿園グループホーム愛々		
所在地	福岡県宗像市稲元5-2-2		
自己評価作成日	令和1年10月1日	評価結果確定日	令和2年1月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキ+enterで改行出来ます)

地域に密着した事業所として、周囲には学校、市民体育館、公民館などがあり、地域の自治会にも加入し民生委員さん地域の方たちの協力で、行事に参加しています。『素敵な笑顔で和気愛々』を基本方針とし、2ユニット18名のご利用者が共同生活をされています。①思い作り②美味しい食事③健康で楽しくを愛言葉として、自宅での生活と同じように毎日の食事作り、外出、趣味活動などを積極的に取り入れ、いつまでも住み慣れた地域でその方らしく暮らしていけるように支援しています。入所してもご家族の協力により(外出、外泊)、年2回家族会を開催、入居者様、ご家族、職員との交流の機会も多く、信頼関係を築いています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「宗寿園グループホーム愛々」は宗像、福津市で複数個所の介護施設を展開する北筑前福祉会が運営するグループホームであり、平成20年11月に開設された。平成29年5月には新ユニットがオープンされ2ユニットになった。家族会は年2回開催し、10月の家族会食事会には全家族の参加があり、全員で50名ほどになった。ゲーム、くじ引きなどを行った。3月には誕生日をかねて茶話会を行った。利用者、家族、職員との交流の機会が、持っている。公民館の婦人会のボランティアが一階のデイサービスを訪問し、ひよっこ踊り、ピアノ、ギター演奏、フラダンスなど披露してくれた。中学生の職場体験もあり、男女ペア四名、と支援学校の生徒一人の訪問があり、利用者も大変喜ばれた。小学校の学習発表会、運動会を見学に行くなど、地域との交流は盛んにある。今後も地域に密着した事業所として、益々期待される事業所である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP:http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	令和1年12月3日		

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており、信頼関係ができている(参考項目9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが				

07 秋は又強くなり、安心して暮らしている (参考項目:30)	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	○経営理念である「共生」を基本とし「素敵な笑顔で和気愛々」を運営方針に掲げている。	法人の経営理念である「共生」を基本として「素敵な笑顔で和気愛々」を運営方針に掲げている。理念は事務所、各ユニットに掲げてあり、ミーティング時に振り返り確認、共有している。法人の目標に対し事業所の目標をたて、職員各自も、個人目標を立て、毎年本部に提出する。目標生活シートがあり、5月、10月に個人面談を行い、3月に目標に対しての一年間の反省、取り組みについて話し合い、次に向けての目標をたてる。管理者、職員はその理念を共有し実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	○近隣の店への買物を行っている。 ○隣接する老人福祉センターを利用する事により地域住民と接する事が出来る。 ○地域の行事見学(運動会、敬老会等) ○地域の自治会への加入(GHとして) ○中学生の職場体験受け入れ	近隣の商店へ利用者と一緒に徒歩で買い物に行っている。包括より委託を受け法人が行っている福祉センターが隣接し、夏祭り、敬老会等様々な催しものに、利用者と一緒に参加している。併設のデイサービスに地域ボランティアの踊り、ピアノ、ギター演奏などの訪問がある。福祉センターに幼稚園児の訪問もある。中学生の職場体験の受け入れも行っている。地域とのつながりを持ち、穏やかな生活が日々送れるよう取り組んでいる。	福祉センターを拠点として、地域とのつながりが密に行われており、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している事がよくうかがわれる。今後も地域とのつながりを持ち、穏やかな生活が日々送れるよう期待している。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	○宗像・福津介護サービスや地域密着ネットワーク 主催の事例発表の場があり地域の方や、他施設の参加も多い ○他事業所(施設)見学会の実施 ○他施設の紹介や、情報を提供している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	○運営推進委員さんよりの助言、地域の子供たちとの関わりの橋渡し(民生委員、自治会長さんの協力) ○声かけにより小学校の運動会、学習発表会の見学に行っている。	運営推進会議は二か月に1回行われ民生員、自治会長の協力もあり、市の職員、家族2名の参加がある。小学校の催しなどの情報をもらい運動会、学習発表会の見学に行った。事業所での離設の件を報告、話し合いを行った。運営推進会議の議事録は、毎月家族に送る手紙の中に入れ、事業所の取り組み状況について報告している。	運営推進会議の議事録を家族に送付する際に、特に周知したい箇所に☆印などをつけたり、次回の予定など一筆かかれてみたらどうだろうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	○運営推進会議、地域密着会議を利用しながら協力関係を築いている。	運営推進会議に市から参加があり又訪ね事は書面で連絡し書面で受け取っている。地域密着型サービス事業所連絡会に入っており、二か月に1回連絡会を行っている。参加事業所はグループホーム、認知症デイサービス、小規模多機能、有料老人ホーム、地域密着型特定施設などがあり、人員不足、空き情報などの情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	○研修会等に参加し意識を高め、定期的に拘束委員会開催及び勉強会を実施し、職員間の連携を図り、拘束をしないケアに取り組んでいる	新ユニットは自動ドアになっている。2階に以前からあるユニットは施錠はなくチャイムが鳴り、音で職員が気づく。人感センサーを利用されている方もおり、家族には話を行っている。隣接の施設で、身体拘束の研修は年2回受け、身体拘束委員会の勉強会もある。スピーチロックについては2週間毎に自己評価を行いミーティング時に伝達する。気が付いた時はそのつど、お互いに注意している。	

2019.12自己・外部評価表(宗寿園愛々)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	○研修会に参加し、支援のなかで気付いた事があれば、その場で話し合うようにしている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	○成年後見受任資格を有する職員が研修に参加している。必要とする方には、すぐに対応出来るように支援体制をとっている。	毎年、外部研修を受けた職員が、ミーティング時に資料と一緒に伝達している。パンフレットも常時用意してある。福祉センターのケアスクールにて実務者研修などを行っている。制度についての理解は管理者、職員もできており、必要とする利用者にはすぐに対応できるように支援体制を取っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	○見学、電話での問い合わせが気軽に出来るように窓口を設けている。利用者、家族等が不安や疑問に思う点については、十分な説明を行ない理解、納得を得た上で契約に及んでいる。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	○運営推進会議を年6回開催し家族に参加して頂き意見、要望などを伺っている。また、家族会を年2回開催し懇親会を兼ねて意見の交換会もされている。頂いた要望、意見には迅速に対応している。玄関に意見箱を設置している。	運営推進会議に家族に参加してもらい意見、要望などを聞き取っている。家族の訪問も多く訪問時に意見、要望などを聞き取る時間を作っている。年2回家族会を開催し、多くの家族の参加があり、懇親会を兼ね意見の交換がされている。玄関に意見箱を設置している。要望、意見には迅速に対応し、それらを運営に反映させている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	○毎月のミーティングや年1回のフリートーキング等を実施し意見を述べる機会を設けている。常勤、非常勤一緒に、また1階と2階の職員合同で月担当を決め行事等の企画にアイデアを出し合い全職員になげかけている。	毎月のミーティング、年1回のフリートーキングで、疑問点、意見などを言える機会がある。各ユニットごとのミーティング時に介護の内容に伴う勤務時間の変更を提案した。2ユニットの職員合同で月担当を決め、行事などの企画にアイデアを出し合っている。年1回のフリートーキングは本部で行なわれ、意見を述べる機会がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	○年2回自己評価の場が設けられており各自、目標を掲げ、一人ひとりが向上心を持って働けるようにつとめている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	○平等な人選が行われており、差別等はない。採用された職員は本人の持つ能力、特技等を発揮出来る場をもち活躍してもらっている。資格取得、研修等に積極的に取り組んでもらい質の向上にも力をいれている。	職員は24歳から50歳代まで幅広い年齢層であり、ベテランと新人職員が協力してケアに取り組んでいる。休憩室もあり、一時間の休憩も取れる。看護、介護、栄養、相談などの各委員会に一年交代で携わり能力発揮の場所となっている。各自目標を掲げ資格取得、研修に積極的に取り組み自己研鑽に励んでいる。アンガーマネジメントなどの勉強も行っている。	

2019.12自己・外部評価表(宗寿園愛々)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	○法人の基本理念に「人権を尊重し、人としての尊厳の確保」を掲げており、ご本人の人権を尊重し尊敬の念を持って接している。職員に対しても人権教育や研修に参加してもらう事に積極的に取り組んでいる。	法人の基本理念に掲げているように、利用者の人権を尊重し尊敬の念を持ち接している。福祉センターにケアスクールがあり人権教育などの勉強ができる。外部研修で「高齢者虐待防止」「権利擁護研修」などの研修を受け、内部研修にて伝達研修を行っている。法人の相談委員会でDVDを各事業者に配り、グループワークを行う等、職員に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	○随時、研修や講演会の情報を掲示、回覧し、法人内外の研修を受ける機会が設けられている。(法人内にケアスクールを有する) ○資格取得に対する援助がある。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	○2か月に一度「地域密着型サービス事業所連絡会」に出席しており、連携をとる機会となっている。 ○市内の権利擁護に関する団体に属し、ネットワーク作りを行っている。 ○勉強会にも積極的に参加している		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	○管理者、ケアマネージャーが主となり、それまでの本人の生活背景を考えながら、本人の意思を尊重し話しをするようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	○家族からは、十分に話を聞き現在の状況を把握すると共に、思い・訴えを受け止めるように努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	○状況に応じた支援が出来るようにアドバイスを行っている。 ○利用者を理解する為に、カンファレンスを密に行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	○法人理念である「共生」に基づき一方向の関係で支援するのではなく、利用者から学ぶ姿勢を忘れず信頼関係を大切にして関わっている。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	○家族からの思いを伺いながら、職員の思いを伝え、一緒に本人を支えるという協力関係を築くように努めている ○家族会年2回実施し交流の機会を設ける		

2019.12自己・外部評価表(宗寿園愛々)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	○電話・手紙・年賀状など、良い関係を継続出来るように支援している。 ○遠方のご家族とメールでやり取りしている。 ○外出時等家族の協力で、自宅に戻られた時に近所の方と茶話会など楽しませている。	習字の生徒の訪問、お寺の友人の訪問などがある。近隣の方が花を持ってきてくれる。アパートに住んでいた時の友人の娘の訪問があった。家族又遠方の方に年賀状を出す。手紙を書ける人には書いてもらい職員が投函する。携帯電話は預かり、必要な時には職員が電話をかける。本人が大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	○家事活動や外出の機会に体験や思いを話していただき関わっている。外出・買物・レクを一緒に行う事により良好な関係を築いている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	○転居先への面会、死去された際のお通夜又は葬儀への参列を行っている。 ○退所時には愛々での思い出としてDVDを制作し渡している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	○担当者会議や会話などを通し暮らし方の希望や意向の把握に努めている。困難な場合は本人の普段の言動を観察、家族と情報交換しながら検討している。	アセスメントは入居時にセンター方式の書類に家族に書き込んでもらい、思いや暮らしかたの希望、意向の把握に努めている。本人の反応や表情の変化から、気持ちを汲み取り、書類につけ加えていく。食事、服薬、排泄などの様子を担当者が記録し、職員全員で把握に努めている。事業所独自の23項目のアセスメント様式やセンター方式を活用し、半年又は一年に1回アセスメントの見直しを行なう。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	○入所時にはセンター方式の用紙に家族に記入していただいている。 ○ケアプラン変更時にはセンター方式を見直している		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	○職員間で情報交換を行いながらバイタルチェックや活動、食事量、排泄等を通して変化がみられていないか把握に努めている ○施設独自の23項目のアセスメント様式やセンター方式を活用しアセスメントを定期的に行っている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	○月1度のミーティング等、又適宜ミニカンファレンスを行い、各利用者の状態、状況を話し合いその結果をふまえてケアマネが計画を作成している。必要に応じて家族と担当者会議を実施している。	担当者は2~3名の利用者を持ち、月1回のミーティング時、又はミニカンファレンスで、各利用者の状態、状況を話し合いケアマネジャーが計画を作成する。担当者会議は半年又は一年に1回行い、家族の出席のない時は、家族から事前に意見、要望などを聞き取る。医師の意見書、定期受診の様子などケアプランに反映させている。日々のケア記録とプランは連動している。	

2019.12自己・外部評価表(宗寿園愛々)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	○ケース記録の他ノートでの伝達、モニタリングのほか必要時(心身の変化)にはカンファレンスを行い見直しに努めている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	○一人ひとりのペースに合わせたり、その日の天気により外出など利用者の状態を見ながらその都度対応を考え取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	○外出(買物、散歩、地区の行事見学)を行いながら現有能力を活用する事に努めている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	○従来からの本人、家族とかかりつけ医との関係を尊重し、受診を継続していただいている。状態が変化した場合には家族へ報告し主治医へ相談していただいている。発熱や食欲不振・便秘など体調不良時には家族へ報告、受診を通して医師へ相談を行っている。状態によって薬に関する内容が含まれる時には、直接相談し指示を受けている。認知症による精神症状等が目立ってきた際、家族と相談して専門医への受診を勧められている。	従来からのかかりつけ医を受診している。月1回又二か月に1回通院。皮膚科、眼科など他科受診も家族が対応している。家族の対応が難しい時は事業所で対応している。受診時の様子は家族から聞き取り、記録に書き込み全職員で共有している。認知症による精神症状が目立ってきたときは、家族と相談し専門医を受診している。看護師は非常勤だが、職員と同じようにフルタイムで勤務しており、何かと相談ができる。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	○看護師へ連絡・相談・報告を行い、連携を図っている。 ○かかりつけ医と連携を取りながら適切な医療を受けられるよう支援している		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	○入院時は日常の情報を提供し、主治医や病院と連絡を密にとり、早期退院に向けて話し合いを行っている。(カンファレンス参加)		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	○医療機関と連携を図り、事業所で出来る範囲での対応を行っている。 ○ご家族面会時に細目に現状を伝えたり担当者会議を開催し情報共有を行ったりご家族の理解を得られるように努めている	看取りは現在行っていない。入居時に、家族に説明をしている。重度化した場合は医療機関と連携を取り、事業所でできる範囲での対応を行っている。家族の訪問時に現状を伝えたり、担当者会議を開催し、十分に説明しながら方針を共有し、理解を得られるように努めている。ターミナルケアの研修は行っている。	

2019.12自己・外部評価表(宗寿園愛々)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	○事故・ヒヤリハット発生時ケアカンファで対策を立て2週間後再評価し再発防止に努めている ○定期的に法人主催の勉強会に出席し、情報の共有を行っている ○緊急時のマニュアルを作成、準備している		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	○避難訓練を実施している。消防署、運営推進委員さんと共に夜間想定避難訓練を実施している。 ○夜間、宿直職員を置いている。	年2回、消防署の職員立ち会いの下、水消火器で火災訓練を行った。運営推進会議と重なった時は運営推進委員、宿直職員(守衛)の参加があった。福祉センターが避難場所になっている。備蓄は法人全体で行っており、水、乾物、米、非常食を常備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	○尊敬の念を持ち、その方に応じた声掛けを各自、実践している。又、利用者の立場に立って考えプライバシーが守られるよう気をつけている。	年1回接遇のマナーの研修を行っている。絶対使わない言葉「やめて」「しないで」「ちょっとまって」を決めている。トイレ誘導時の声かけにも利用者の立場に立って考え、声かけを行っている。写真利用の同意、インターネットの同意も取っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	○出来るだけ1対1で話が出来る時間を作り、本人の思いが伝えやすい場を作っている。選ぶことが難しくなってきた方へ2つの中からどちらがいいか尋ねたり工夫している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	○一人ひとり体調やペースを見ながら休息をとったり、家事を手伝ってもらったりなどしている。どのように過ごしたいかなど本人に尋ね、出来るだけ希望に添う様な過ごし方の提案もしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	○出来るだけご自分で整容してもらえよう鏡の前に立っていただき、温かいタオルを渡したり髪をといてもらったりしている。毎朝お化粧の声掛けをし、おしゃれに対しての意識を持っていただいている。外出時には一緒に服を選んでいく。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	○個々の出来る事を職員が把握して、食事の準備、片付けに参加して頂いている。又、季節に合わせ春は花見弁当作り、冬は鍋など行う。梅ジュース・干し柿作り・郷土料理等在宅時と変わらない物を提供し、味覚や懐かしさを回想し、満足して頂いている。 ○月1~2回程個々の好みに応じて外食を行っている。 ○日曜日の昼食は食べたい物を尋ねてメニューを決め、買物から食事作りまで一緒にしている。	日曜日の朝食、昼食は献立を利用者と相談し決め、材料を購入し調理している。平日の朝、夕は材料が施設厨房から来て職員が調理している。餃子包み、野菜を切る、ほぐすなど、個々のできることを行ってもらっている。季節の合わせた料理及び干し柿作りなどを行い、味覚や懐かしさを回想してもらっている。月1~2回はおやつ外食、ドライブ外食などを行っている。誕生日にはケーキでお祝いし、家族にも声かけを行っている。	

2019.12自己・外部評価表(宗寿園愛々)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	○食事・水分共に摂取量をチェックし記録している。食欲のない方、摂取量が少ない方へは、ご本人が食べ易い物、食べれる物を提供している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	○ご自身でできる方以外はリビングの洗面台に歯ブラシを置いて毎食後声掛けから、見守り、一部介助の方まで対応している。義歯装着者には外していただきブラッシングや夜間入れ歯洗浄剤にて除菌洗浄している。個々の歯ブラシ等も毎日殺菌洗浄している。 ○週に1回訪問歯科を利用し口腔ケアに努めている		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	○トイレで排泄が出来るように誘導している。(必要に応じて排泄チェックを行っている)夜間も必要に応じて声掛け実施。入居後や退院後には、失禁や汚染の改善がみられる。	排泄チェック表により、声かけトイレ誘導を行う事でリハビリパンツから布パンツにパッドに改善された。入院、退院後は様子を見ながら排泄のリズムを把握し、看護師に腸の動きを見てもらったりしながらリハビリパンツから布パンツにパッドに改善された。失禁した時はトイレで着替える。トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	○お茶・オヤツ・食事作りに気を配り便秘の改善をしたり、工夫している。海草寒天ゼリーも提供している。 ○起立訓練や歩行する機会を作り体を動かす事で便秘予防に努めている		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	○夏場は入浴日を増やす等、出来る限り本人、家族の希望を聞くようにしている。本人のタイミングに合わせて入浴の声掛けをし、タイミングが合わない時は翌日にするなど安心して入浴して頂けるよう工夫している。 ○身体に湿疹ができていない方には入浴日以外にシャワー浴を実施し清潔の保持に勤めている	週2~3回、一日3~4人、午後から入浴を行う。個浴で季節に合わせて「しょうぶ湯」「ゆず湯」「バラ湯」などを楽しんでいる。本人のタイミングに合わせて入浴の声掛けを行っている。皮膚の状態を観察し、湿疹ができていない方は入浴以外にシャワー浴を実施し清潔保持に努めている。入浴時はコミュニケーションの場所として個々にそった支援を行っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	○ケアプランに準じて休息の必要な方へはその都度休息を促している。その他の方に対しても活動の後や本人の様子を観察しながら休息を促している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	○申し送りカルテ等を職員が把握して理解に勤めている。 ○利用者ノートを活用し、主治医からの指示や報告を周知、把握している。 ○薬情ファイルを作り個々の内容、変更など確認してから与薬している		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	○それぞれの好きな事を職員が把握して趣味などが継続的に行えるように支援し、ご家族の為に作った作品をプレゼントするなど本人の意欲を高めている。		

2019.12自己・外部評価表(宗寿園愛々)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	○「買物に行きたい」と希望があればその都度出掛けられるようにしている。又、ご家族にも外出をお願いするなどして可能な限り外に出れるように努めている。 ○隣接する市民公園への散歩や花見に行き、季節を楽めるような外出を行っている。	毎日、一日一回は外出している。買い物に行きたいとの希望があれば近隣の商店に出かけられるようにしている。隣接する市民公園に散歩、花見に行き季節を楽しんでいる。受診時に食事などに行く事もある。一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	○数名だが、ご自分でお財布を持ち、ご家族、職員と一緒に管理している。外出時には、ご自分で支払いされ出来る事を継続していただけるように支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	○電話の希望がある方は電話される。ご家族や本人の要望から携帯を所持している方もおられ、時折ご自分で電話をかけることもある。遠方のご家族には手紙を出されたり届いた手紙の返事を書かれたりしている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	○不快感や混乱等をまねくような空間にしないように努めている。 ○季節に応じたディスプレイ(利用者と制作したもの)をリビングに装飾している。 ○居室扉に手作りの表札を飾り、自室が分かりやすいよう工夫している。	東向きリビングから見える山の間から太陽が昇ってくる。昼は明るい光が惜しみなく注がれ、穏やかな空間を作っている。利用者と一緒に制作した季節のディスプレイをリビングに装飾し、居室扉には手作りの表札を飾り、自室がわかりやすいように工夫している。リフト浴槽と広めの普通浴槽があり、明るく清潔に保たれている。1階のユニットの中庭には利用者と一緒に育てた大きなポインセチアの花が置かれている。リビングからは藤棚が見られ、大きな幹の桜が数本あり、春の訪れが待たれる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	○居室でくつろぐ時間を大切にする為プライバシーの配慮に努めている。 ○日当たりのよい場所に椅子を準備し少人数で楽しめる場所を作っている		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	○使い慣れた物(タンス等)を持ち込まれていたり、テレビを設置されている方も居る。安全面を考え家具を動かしその都度、模様替えをおこなう。家族との写真を飾り安心して過ごせるようにしている。	ベッド、エアコン、クローゼット、照明などは備え付けてある。居室にはトイレ、洗面台が付いておりプライバシーに配慮された空間になっている。使い慣れた趣のあるテーブルには制作中の年賀状が置かれていた。得意な編み物の手作り作品が部屋に飾られ、作品は「ちよこっと新聞」に掲載された。家族の写真を側に飾り、安心して居心地よく過ごせるようにしている。	
		建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	○理解の出来なくなった方には目に止まる程度の張り紙をしたり、ボタンなどの横に説明を少し書いたり工夫しながら理解しやすいようにしている。必要に応じてスケジュール表等を作成している。		